

ふれあい つながり かわら版

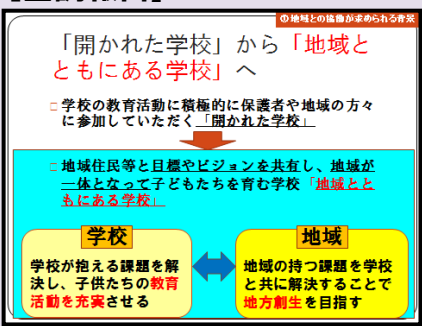
ひめじ教育フォーラム2019

令和元年8月28日(水)にひめじ教育フォーラム2019を開催しました。開会行事では、市長より、「子供達が個性を活かして輝きながら、それぞれの花を咲かせるように、地域と学校が今まで以上に良きパートナーとして連携・協働することは、教育だけでなく地域の活力・元気にもなり、地域の発展や国の大きな未来につながる」と挨拶がありました。今回のかわら版では、「**地域とともにある学校づくり**」をテーマにフォーラムを振り返りたいと思います。

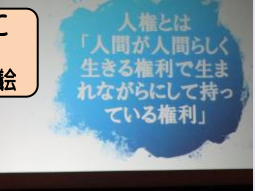
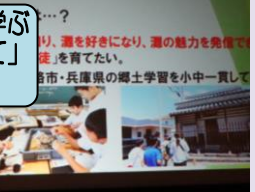
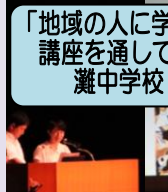
「開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ

【**基調報告**】本市では、これまでも、「**開かれた学校**」づくりが展開され、保護者や地域住民による学校の教育活動に対する支援体制が構築されています。報告では、具体的な支援の例を紹介しつつ、これ

【基調報告】



【実践発表】



れからの社会情勢の変化を考えると、家庭や地域と目標やビジョンを共有し、地域が一体となって子供を育て、**「地域とともにある学校」**という考え方に発想を変える必要があると報告がありました。

地域の宝を社会総がかりで 実践発表

- ①安富北小学校は、5・6年生による和太鼓の演奏と3・4年生によるプレゼンでESD教育(持続可能な開発のための教育)の一端を紹介してくれました。
- ②山陽中学校は、放送部生徒による絵本「よしこがもえた」の朗読を交え、全校生徒が姫路空襲から戦争と平和について、地域の人材や施設を活用しながら学習した取組を生徒会の代表が発表しました。
- ③②の児童生徒による発表は、今、学んだことを大人になった時に次の世代へ語り継ぎ、姫路の未来をより明るく豊かにしてくれると期待できるものでした。

Win & Win & Win お互いの学び合ひの講演

最後は、大阪府河内長野市の美加の台中学校区において「学校支援コーディネーター」として活躍されている大谷裕美子氏の講演がありました。一人で前にあるピンをたおす「ボーリング型」から、皆で軌道修正しながら的をねらう「カーリング型」へと地域と学校の関係を変える必要があると提案し、豊富な実践を紹介されました。地域のたくさんの人との出会いが子供を育てるきっかけとなり、**学校と地域と家庭が、お互いさまの学び合ひをしていると感じること**が重要であると話をまとめられました。

子供を含めた全ての個人が、生涯にわたって主体的に「学び」、他者や社会との関係性などの「つながり」を大切に、自立の精神によってお互いに「高めあう」教育を、社会全体で支援していくこうとする気運が高まる「ひめじ教育フォーラム2019」でした。

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120

小中一貫教育でひらく
ことばの未来